

文化庁

令和4年度「文化芸術による子供育成総合事業-コミュニケーション能力向上事業-」 ＜NPO 法人提案型＞

子供たちの創造性やコミュニケーション能力を育むための ダンス体験学校訪問ワークショップのご案内



(左：うるま市立あげな小学校 右：那覇市立大道小学校 R3年度アーティスト：赤丸急上昇（赤松美智代・丸山陽子）、知花幸美）

NPO 法人 JCDN(ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク)は、京都市内に事務局を置き、アーティストとともに全国各地へダンスを届ける活動を行っています。教育に関わる活動では、これまで、文部科学省(令和元年より文化庁に移行)の「コミュニケーション教育事業」や行政からの委託を受けて、アーティストが小・中学校へ出向いて行うワークショップのコーディネート、学校の先生のためのダンス教材開発などを行っています。からだを使ったコミュニケーションや創作方法である“ダンス”を通じて、一人一人の個性を引き出し、生きる力を養い、多様な価値観や他者との協同などについて学ぶことを推進しています。

H27-R3 年度、当該事業を沖縄県内 18 校で実施しました(沖縄市立山内小、沖縄県立美咲特別支援、那覇市立石嶺小・大道小、名護市立瀬喜田小、八重瀬町立新城小、西原町立西原南小、西原町立西原東小、豊見城市立伊良波小、宜野湾市立普天間小、うるま市立あげな小、北谷町立桑江中、南城市立知念中、石垣市立石垣小・平真小、竹富町立上原小、宮古島市立伊良部島小・中)。本年度も、沖縄県内の小中高校を対象に、下記の通り、実施希望校を募集します。ぜひこの機会にご応募ください。

記

1. 派遣アーティスト

学校側の希望と可能なスケジュールをお聞きし、全国のダンスのアーティストの中から、経験が豊富で信頼のできるアーティストを、JCDN(コーディネーター)が推薦し、各学校と相談の上決定します。

2. 派遣期日 令和4年1学期～令和5年2月末ごろまで(※開催時期は各学校とご相談の上、決定)

小中高校のいずれか計3-4校程度で実施。1回1クラス～2クラス程度(多い場合は応相談)。

回数は、1回90分(*)×3回のワークショップを3日間連続で行います。

*当該事業が同じ児童生徒に対し最低3回以上の授業を行う事を推奨しています。1学年3クラス以上など人数が多い場合は、2クラスごとに時間割を分けて行うなど検討します。詳しくは、実施決定後に打合せを行い、相談して決めます。

3. 費用 アーティストにかかる交通費・宿泊費・謝金など、全て文化庁の助成金により負担します。

4. 受託団体 NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network (JCDN) 担当:神前(コウサキ) 京都市下京区神明町 241 オパス四条 503 TEL/075-361-4685 Mail/jcdn@jcdn.org WEB: <http://www.jcdn.org>

5. 申込・問合せ 2022年5月26日(木)までをめぐに、沖縄県教育委員会 文化財課(担当/立津)まで。 FAX: 098-867-4350 ※内容に関するお問い合わせは、4の受託団体までお願いします。

＜授業後の教員アンケートより＞

(児童について) ●児童自身が想像することや表現することへの楽しさを味わうことができました。●普段は目立たない児童が発表の場では、想像力豊かに表現する姿や表情を見る事ができ、教師のみならず、児童同士にとってもお互いに認めあえるいい機会になりました。●最高です。表現活動を通して、集団のまとまりや個性の伸長が短期間で大きく変わった！ ●普段なかなか自己表現をしない子も自分を解放して体を動かしていました。子どもたちはみなとても喜んでおり、お家でお母さんとやったよ、という児童もいました。●活き活きしていて楽しそうでした。

(先生ご自身について、他) ●とても良かった。ダンスに関する引き出しが少ないので、講師の先生方が工夫を凝らして用意してくださったワークの数々が、とても参考になった。●課題へのアプローチの仕方や見方が、教員以外の視点で頂けたことが、今後の指導における大きなヒントとなった。3日間の授業をゆっくりじっくり客観的に子どもたちを見つめ直す機会となった。●学校では統率されることが多いが、個々の自由な発想を大切にしていきたいと考えるようになった。●こんなに素晴らしい事業があるなんて今年初めて知りました。●子供達の別の一面が見られた。

＜児童生徒のアンケート(小学1年生～中学3年生) より＞

●ダンスは決まった事がない。自由にやる事。ダンスに興味を持ててよかった。●いろんな人がめちゃくちゃに笑っていた。私もみんなも楽しそうでした。●ダンスをしていろいろな表現ができるようになった。●みんなアイデアでいっぱいだった。●思ったことをダンスに表せられる。激しいダンスと違った。ダンスをして自信を持つことができました。●友達とだったら、伝えたいことはダンスで表現できる事がわかった。●「決められたダンス」をすと思っていたけど、自由に表現するのはとてもたのしかった。●色々な動きをしたり、ふしぎな動きをしている子がたくさんいた。●友だちがとても真剣な顔でやるのをはじめて見た。●こんなに体が動くと思わなかった。●体を大きく動かすと体がほぐれた。●クラスであまり話していない人とふれあえたので良かったです。●いつもははずかしがりの子もいろいろ工夫していた。●こんなに楽しかった体育は初めてかもしれません。ありがとうございました。●体でいろいろなことを表現できるということを発見した。●みんなで協力できたし団結できたと思った。●ダンスがあんなにもおもしろいと思わなかったです。またやりたい。●うちでもやってみたい。

実施希望調書（申し込み用紙）

学 校 名		立		学校	
所 在 地 等		〒		FAX	
		TEL		御担当者: Email	
学校長名				担当者名	
1	実施学年・学級数				
2	対象児童・生徒数		年生	クラス	名（男 人／女 人）
			*3クラス以上の場合は、時間をずらして実施するなど、応相談。		
3	実施日程(希望される時期などをお書きください。)				
4	実施希望理由、ほかコメント等あれば				
5	教育課程への当該事業の位置づけ				

2021年(令和3年) 1月18日

月曜日

琉球

球

南

幸

創作ダンス表現力磨く

南城 知念中でワークショップ

【南城】南城市立知念中学校(垣花英正校長)で12月22、24日の3日間、コンテンポラリーダンスを招いてのダンス体験ワークショップが開かれた。同校1年生47人が参加し、創作ダンスに打ち込みながら、創造力やコミュニケーション能力を高めた。文化庁の「文化芸術による子供育成総合事業」コミュニケーション能力向上事業の一環で、委託先のNPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワークが公募で決めた学校に優秀なダンサーを派遣し、ワークショップを開いている。

講師は愛媛県松山市を拠点にコンテンポラリーダンスカンパニー「ヤ」点に活動するコンテンポラ「ミーダンス」の合田緑さん



生徒と一緒にダンスを振り付ける合田緑さん(前列左)と得居幸さん(同右)＝12月24日、知念中学校

と得居幸さんが務めた。2人はまず、生徒らに円をつくってもらい、相手の目やしぐさを見てまわるトレーニングを実践した。その後手拍子を取り入れた振り付けや躍動感のある動きなど、生徒と一緒にダンスを創作。最後は教員らを前にして全員で作上げたダンスを披露した。

参加した屋比久あゆみさん(13)は「これまでに経験したダンスとは違って面白かった。コロナによって思い出に残るような学校生活が送れなかったけど、とてもいい経験ができた」と笑顔で語った。

合田さんは「生徒たちはみんなしっかりとコミュニケーションが取れている。豊かな感性を持っている。素晴らしい子たちだった」と絶賛した。

■琉球新報 教育面リレーコラム『未来へいっぽにほ』

2017年4月～9月まで NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワークの神前が連載を担当しました。(2017年6月23日)

身体はうそをつけない

未来へいっぽにほ

神前 沙織 (NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク)



2011年度から文部科学省が子どもの表現力・創造力・コミュニケーション力を豊かにするための芸術体験事業を行っている。現代社会で子どもが生きる力をつける学習の一環として、美術、音楽、ダンスなどの専門家(アーティスト)が授業の中で、芸術表現のワークショップを行う。私は学校とアーティストのつなぎ役、それも創作ダンスを専門とするコーディネーターである。沖縄では2年前から沖縄市、那覇市、名護市、石垣市の計5校で実施した。

昨年度、那覇市の小学校で行った3日間の授業が記憶に新しい。思春期前の6年生60名。自我の芽生えが「恥ずかしい」気持ちになって現れる微妙な年齢だ。1日目は心と体をほぐすのに時間をかけ、2日目は大きく動くとか、仲間の目を意識しすぎずに表現することに慣れてきて、3日目では一人一人の本来の表現が見えるようになる。個人差はあるが、少しずつ、いつの間にか普段の自分や周囲とのしがらみ、関係性を意識せずに自分を表現できるようになる。ともすると閉じられていた何かが開かれる。そういう発見が随所に見られた。

この時の担任は、そうしたダンスの可能性を見抜いてこう話した。「身体はうそをつけない。ノートも机も、身体は何もないから、体一つで勝負しないといけない。他の教科と違ってすぐ数値化できるものじゃないけれど、それ以上の人間力が身に付くと思う」

SNSが普及し、子どもたちが小さな機械に振り回されタイミックスを失いつつあるという。そういう時代だからこそ、人それぞれの原石が磨かれる機会はたくさんあってほしい。

ちなみに今年度も当事業を行ってになった。現在、沖縄県教育委員会を通じて参加校を公募している。

7年異年齢集団での交流学習(3年生とダンスを楽しむ)

コミュニケーション能力の向上をめざした文化交流事業 (文化庁事業)

令和2年11月14日付

伊良部島小中学校



講師のマニシアさん(手前右)の指示のもと、筒を使った踊りを踊る児童生徒ら＝伊良部島小中学校体育館

宮古新報

小中混合でダンス教室

専門家招き「協働する力」学ぶ

伊良部島小中学校・中学校(宮城克典校長)は11日から3日間の日程で、ダンスや打楽器奏者を招き、同校3年生と7年生を対象にダンス教室を行った。最終日となる13日、児童生徒らは打楽器の軽快なリズムに合わせて、自由に身体を動かしていた。

授業では「他者理解力」「協働する力」「伝える力」を身につけることをねらいとしている。同校では小中一貫校の特色を生かし、発達段階の異なる集団がそれぞれの立場でコミュニケーションを取りながら身体を使ったコミュニケーションであるダンスの魅力に迫る。講師のマニシアさんは、

児童生徒一人ひとりに紙の筒を渡し、筒を使った踊りを数種類つくるよう指示。児童生徒らは3年生と7年生混合の5グループに分かれ、それぞれのグループでつくった踊りを競い、全員でリズムに合わせて踊った。

同校の与那覇周作教頭は「先生から言われるのではなく、児童生徒が自ら考えて行動するため、自主性を身につける効果を期待している」と語った。

この事業は文化庁の「文化芸術による子どもの育成事業」コミュニケーション能力向上事業の一貫で、アーティストが全国各地の小中学校に出向き、ワークショップなどを行う公算型の事業。

宮古新報

令和2年11月15日付

ダンスの楽しさ発見 結の橋で体育学習

文化庁事業

「みんなでダンスを楽しもう」小3、中1の異学年合同体育学習を通して、をテーマに伊良部島小学校・中学校(愛称・結の橋学園、宮城克典校長)の体育館で13日、文化芸術による育成総合事業(コミュニケーション能力向上事業)を活用した体育学習が行われた。3年生20人、7年生(中学1年生)34人の計54人が参加。子どもたちは、躍動感あふれるダンスを踊り、達成感の笑顔を見せていた。



躍動感あふれるダンスを踊る子どもたち＝13日、伊良部島小・中学校体育館

同事業は、文化庁からJPN(ジャパン・コンテン

ポラリーダンス・ネットワーク)が委託を受けて実施しているもの。

派遣されたダンスアーティストが11、13日までの3日間の日程で、子どもたちにダンスの魅力を指導。ダンスは13日午後に仕上げた。

子どもたちはダンスを通してコミュニケーション能力を発揮し、完成したダンスを生き生きと披露した。

7年の新垣士郎さんと浜川大雅さんは「楽しいダンスだったが、とても楽しかった」と笑顔で話した。